【はじめに】

焼山遺跡は山田町船越第６地割に位置する鉄生産関連遺跡です。発掘調査は、山田町復興計画による防災集団移転促進事業に伴うものです。昨年度から継続して調査を行いました。本日はその成果をご説明いたします。　　調査面積：約１５００㎡

【焼山遺跡はどんな遺跡？】

○時代と位置

焼山遺跡で鉄生産が行われていたのは古代～中世と思われます。南東方向に開けた谷の斜面地に立地し、標高は約５０ｍです。調査以前は杉林でした。

○製鉄工房

製鉄工房と確認できるものが３棟見つかりました。工房からは製鉄炉、作業を行ったと思われる平場、遺物は羽口（ハグチ）、小刀などがみつかりました。

製鉄炉

焼山遺跡は鉄生産に関わる遺跡です。当時の人々はこの場所に製鉄炉をつくり、操業していました。原料は主に砂鉄、燃料は木炭です。遺跡を含めたこの地域は宮古花崗岩帯に位置するため、砂鉄が得やすい環境にあります。

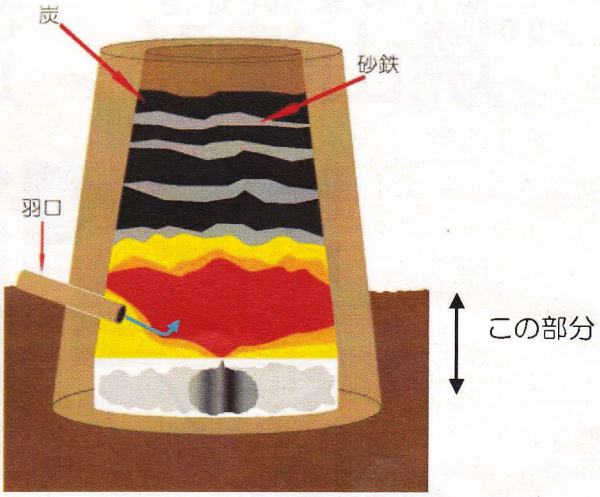
製鉄炉は 12 基みつかっています。右写真の製鉄炉は直径が約 150 cmほどで、炉の使用面（内径）は約 100 cmほどです。手前には流れ出たと思われる鉄滓（テッサイ）（流出滓）がみられます。製鉄炉には木炭と砂鉄を入れて、羽口から空気を送って温度を高め、燃焼させ鉄をつくります。中にできた鉄を取り出す時に炉の地上の部分が壊されます。発掘調査でみつかる部分はほとんどが地下構造だけです（次項イラスト参照）。炉の断面を観察すると木炭がみられます。炉の下部に湿気対策のため木炭を敷きつめていたたようです（断面写真の赤丸部分）。

製鉄炉跡

断面写真

製鉄作業想像図

○古代製鉄炉の仕組み



イラスト：当センター所報「わらびて」第 129 号（平成 26 年 2 月 28 日発行）から抜粋

○炭窯

炭窯と思われる遺構が 11 基みつかっています。製鉄を行う上で燃料となる木炭が多量に必要だったのでしょう。また、何度も同じ場所を利用して木炭を生産していたようです。向きや大きさが多少違う炭窯が重複してみつかりました。製鉄炉との位置関係や組み合わせについても調査を進めています。

重複する炭窯

○性格不明遺構（遺構図面参照）

用途が特定できない土坑（穴）が複数みつかりました。形状もはっきりせず、もしかすると製鉄炉や羽口に使うための土や粘土を採掘した穴なのかもしれません。

【発掘調査でみつかったもの】

遺　構	
工房	３棟
製鉄炉	１２基
炭窯	１１基
排滓場	約２カ所
土坑	８基

遺　物	
鉄滓	１００箱（大コンテナ）
羽口	２０箱（中コンテナ）
縄文土器	１箱（中コンテナ）
石器（磨製石斧など）	４点
小刀	１点